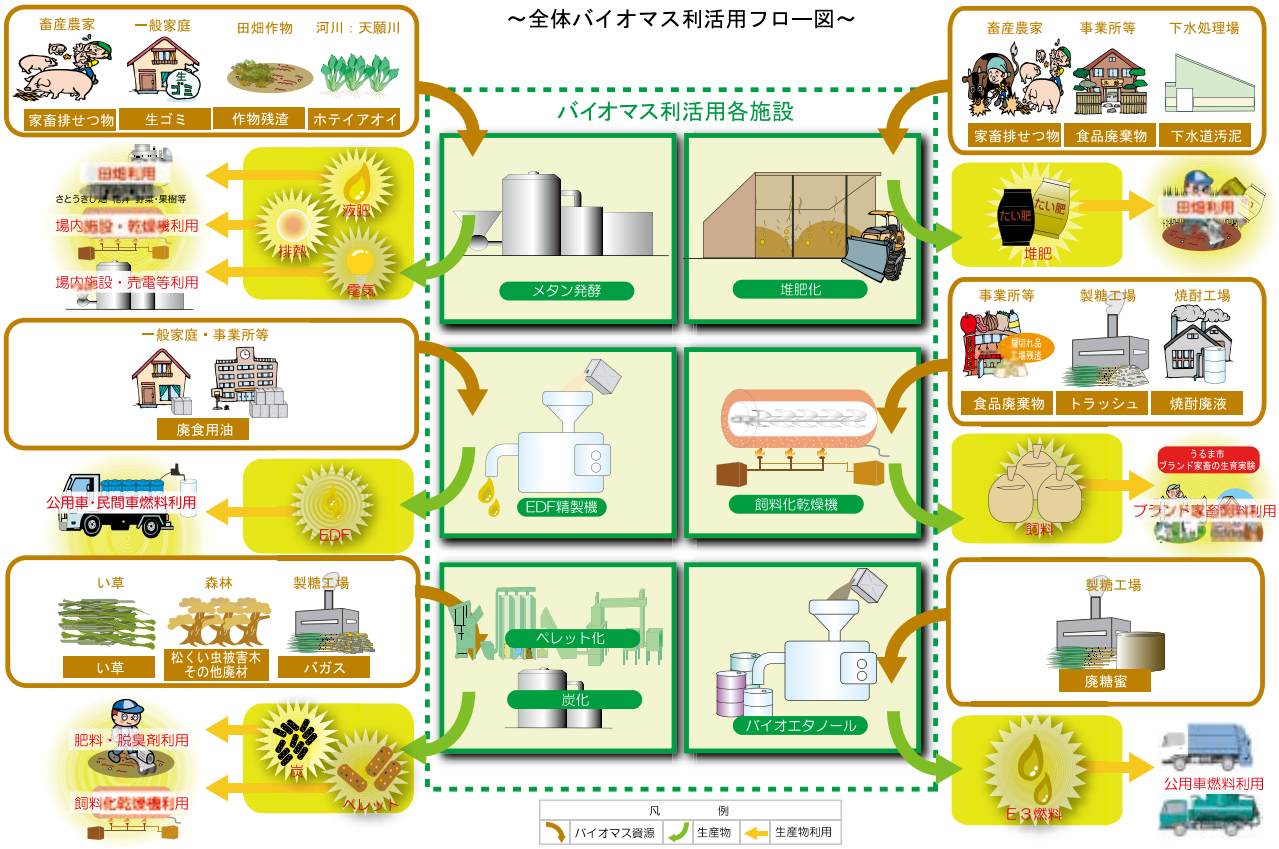
【うるま市バイオマスタウン構想】

～全体バイオマス利活用フロー図～



うるま市バイオマスタウン構想

ひまわりプロジェクトは、うるま市が進めている「うるま市バイオマスタウン構想」の一つです。同構想は、平成19年うるま市が地域の資源を有効に利用することを目的に策定したもので、国の「バイオマス・ニッポン総合戦略推進事業」（平成14年度農林水産省補助事業）によって開設されたHP「バイオマス情報ヘッドクォーター」にも公表されています。

同構想によると、うるま市にある主なバイオマス資源には①家畜排せつ物②生ごみ③廃食用油④ホテイアオイ⑤木質（い草など含む）⑥バガス・トラッシュ・廃糖蜜⑦食品残渣の七種類があり、現在、これらをエネルギー源や燃料として有効に利用しようという取り組みが進められています。

■バイオマスとは？

バイオマスとは、生物資源（bio/バイオ）の量（mass/マス）という意味で、エネルギーとして再利用できる動植物から生まれた有機性の資源のことです。石油や石炭などの化石資源に対して「生きた燃料」ともいわれています。

バイオマスの種類はたくさんありますが、廃棄物系と栽培作物系の二つに大きく分けられます。

バイオマスの分類

廃棄物系			栽培作物系
農林水産系	農業	わら、もみ殻等	さとうきび・とうもろこし 海草など （ブラジルなどでは、エタノール燃料用としてトウモロコシなどを栽培し、自動車用燃料などに用いている）
	畜産	家畜糞尿など	
	林業	間伐材、おが屑など	
廃棄物	産業	下水汚泥、木屑など	
	生活	生ゴミ、廃油など	

■バイオマスタウンとは？

バイオマスタウンとは、バイオマスの発生から利用まで効率よく総合的な利活用システムが構築されている地域、またはこれから行われることが見込まれる地域をいいます。沖縄県内では平成17年3月に伊江村、平成19年3月にうるま市と宮古島市、平成20年7月に金武町がそれぞれの地域の特性を活かしたバイオマスタウン構想書を作成、バイオマス情報ヘッドクォーターにその内容が公表されています。「バイオマスタウン構想書」は、バイオマスタウンを形成しようとする市町村とその地域の関係者が協力して作成し、内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省の合意の上で、バイオマス・ニッポン総合戦略推進会議事務局が基準に合致しているか否かを検討された後、バイオマス情報ヘッドクォーターに公表されます。